

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

一其の三十四
文化の道・長崎街道

問い合わせ先／文化財課(歴史博物館内)

☎(092)8419

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は、翌年から全国の交通網の整備を始めます。整備の目的には、参勤交代や人馬・物資の取り締まりがある一方で、江戸を中心とした主要な五街道と脇街道を全国に設け、街道各所に宿場を設置して交通の便を良くすることにありました。

長崎街道は脇街道の一つですが、九州の主要街道として、小倉から筑紫野市山家・原田を経て、外国との窓口となった長崎へとつながっていました。

長崎街道が整備される前は、朝倉市甘木から八丁峠を越えて嘉麻市大隈を抜けて参勤交代が行われていました。しかし、通行に時間がかかり不便であったよつで、慶長17(1612)年こ

ろに山家宿の初代代官である桐山丹波守(きりやまたんばのかみ)によつて冷水峠を越える道が整備されたことで、市域を通る筑前六宿のルートが開かれました。このことを示す銘文が、山家宿場内に残る恵比須石像(市指定文化財)の背面に刻まれています。

その後、寛永16(1639)年に江戸幕府が発した鎖国令によつて、外国との交易はオランダと中国に限られ、献上品の文物、ラクダやソウなどの異国の動物たち、異国の情報などが長崎街道を通じて江戸へもたらされました。それらを目の当たりにした人々は、



今も残る長崎街道冷水峠の石畳

大変な驚きと好奇心をもつて迎え、各宿場に新たな文化を芽生えさせました。

九州の主要街道であったことから多くの人々が通り、また、異国文化の往来でにぎわいをみせたことは、長崎街道が持つひとつの特色ではないでしょうか。

